

算数科学習指導案

日 時 令和3年7月13(火) 5校時
 児 童 新十津川町立新十津川小学校
 2年1組 24名
 指導者 平川 慎吾

1. 単元名「たし算とひき算」(教育出版 2年)

2. 単元について

(1) 目標

- 百の位に繰り上がる2位数などの加法及びその逆の減法や、百の位への繰り上がり・繰り下がりが無い3位数の加法及び減法について理解し、計算をすることができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、加法及び減法の計算のしかたを考えることに進んで関わり、その過程を振り返り、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2) 単元の指導計画及び評価計画 ※指導に生かす評価の記載

全 9 時 間	学習活動	観 点			
		知 技	思 判 表	態 度	<評 価>
					<振り返る活動の視点>
1	2位数+2位数で百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。	○		○	知・技 百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。 思・判・表 百の位に繰り上がる加法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。(第1時~第3時を通じて評価する。) 主 加法及び減法の計算のしかたについて、既習の計算などをもとに主体的に考えたり、加法及び減法を生活や学習に活用しようとしたりしている。(単元全体を通じて評価する。)
					ア①, ア②, イ②, イ③
2	2位数+2位数で繰り上がりが2回ある加法の計算ができる。	○	○		知・技 繰り上がりが2回ある加法の筆算ができる。
					ア①, ア②, イ①, イ②, イ③

3	繰り上がって答えの十の位が空位になる加法の計算ができる。また、百の位へのくり上がりのない3位数+1・2位数の加法の計算ができる。	○	○	知・技 繰り上がって答えの十の位が空位になる加法や、百の位へのくり上がりのない3位数+1・2位数の加法の筆算ができる。
				ア①, ア②, イ①, イ②, イ③
4	百何十何-2位数で百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを理解し、筆算できる。	○	○	知・技 百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを理解し、筆算ができる。 思・判・表 百の位から繰り下がる減法の計算のしかたを、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図や式などを用いて考えている。(第4時~第7時を通して評価する。)
				ア①, ア②, イ②, イ③
5	百何十何-2位数で繰り下がりが2回ある減法の計算ができる。	○	○	知・技 百何十何-2位数で繰り下がりが2回ある減法の筆算ができる。
				ア①, ア②, イ①, イ②, イ③
6 本時	百の位から波及的に繰り下がる減法の計算ができる。	○	○	知・技 百の位から波及的に繰り下がる減法の筆算ができる。
				ア①, ア②, イ①, イ②, イ③
7	答えが1位数になる減法の計算や、何百-1位数=2位数の減法の計算ができる。また、百の位からの繰り下がりのない3位数-1・2位数の減法の計算ができる。	○		知・技 答えが1位数になる減法や、何百-1位数=2位数の減法の筆算ができる。
				ア①, ア②, イ①, イ②, イ③
8	加法の結合法則を用いた計算や、()を用いた式について理解する。	○		知・技 加法の結合法則が成り立つことや、()の意味や使い方を理解し、式に表すことができる。
				ア①, ア②, イ②, イ③
9	学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	○		知・技 学習内容を理解し、基本的な問題を解決することができる。
				ア①, ア②, イ②, イ③

3. 研究主題との関連

ア 振り返りの視点を明確にする

場 面	① 終末場面において、学習のまとめにつながる要点を「振り返りシート」に文章で記述する。 ② 確認問題を「振り返り」として設定する。
意図や工夫	① 低学年という発達段階を考慮し、振り返りの観点を「学習内容のポイント」に絞った。 ② 学習内容の定着を確かなものにしたり、新しい気づきにつながったりする問題に取り組む。

イ 有効な振り返りの活用

場 面	① 導入で振り返りをもとに前時の学習内容の確認を行う。 ② 「振り返りシート」を1枚の用紙にまとめる。 ③ 「まとめ」の前に振り返りの時間を設定する。
意図や工夫	① 本時の学習の見通しを持たせる。 ② OPP形式の「振り返りシート」にすることで、単元全体の学習の流れがわかり、児童の学習記録になるようにする。 ③ 「まとめ」の前に行うことで、児童自らの考えで学習の要点を記述し、その後の「まとめ」で理解を深めることができるようにする。

4. 本時について

(1) 本時の目標

百の位から波及的に繰り下がる減法の計算の仕方を、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図やブロック、筆算、言葉などで説明できる。

※評価規準

(2) 本時の展開

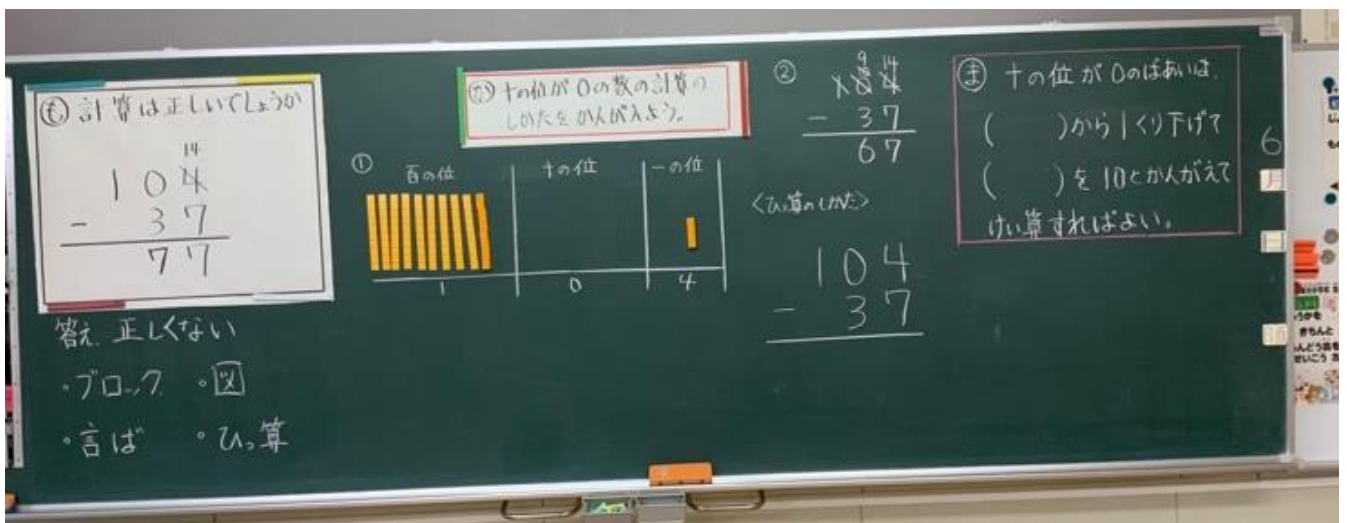
	児童の学習活動	教師の手立て	評価の規準・方法 留意点
導 入 8 分	<p>(1) 前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 163-79の筆算の仕方を振り返りと図で確認 <p>(2) 問題提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題 計算は正しいでしょうか。</p> $\begin{array}{r} & 14 & \\ 10 & & \\ - & 37 & \\ \hline & 77 & \end{array}$ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 十の位をくり下げていない。 ・ 十の位が0だけど・・・ ・ 図やブロックでできそう・・・ <p>(3) 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 十の位が0の数の計算の仕方を考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の児童の振り返りから、本時の解法の見通しにつながるようにする。 ・ 問題提示を工夫し、児童が課題の解決に必然性を持たせる。 	イ①
展 開 2 5 分	<p>(4) 個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートやブロックで考える。 <p>① ブロックを使って正答を考える。</p> <p>② 既習事項を活用し、筆算で考える。</p> <p>③ 引かれる数の十の位が0の場合の筆算の注意すべき点を説明している。</p> <p>(5) 集団解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由交流で考えを確認、深化 ・ 全体交流で理解を確実にする。 ・ 教科書の図をもとに筆算の仕方を確認する。 <p>(6) 確認問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 103-69 に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考のポイントを提示 <p>十の位が0なのでもらえない。どうしたらよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブロックや位取り板を用意し、思考のツールとする。 ・ 指名計画をもとに指名する。 	<p>【評価の観点】</p> <p>思考・判断・表現</p> <p><評価の方法></p> <p>既習事項をもとにブロックや図、筆算、言葉を用いて思考している。</p> <p>(ノート・ワークシート)</p> <p>ア②</p>

終 末 1 2 分	(7) 本時の振り返りをする ・早く書けた児童から交流する。	・間違えないためには、何に気をつけなければいけないか考えて書く。 ・「百の位から」という言葉を入れる。	ア①イ② イ③
	(8) 本時のまとめをする。		
	十の位が0の場合は、(百の位)から1くり下げて、(十の位)を10と考えて計算すればよい。	・重要な部分を穴埋めにする。	
	(9) 学習の定着を図る。 P94の14を①～③をノートに解く。	・早く終わった児童は④～⑥にも取り組ませる。	

(3) 本時の評価

百の位から波及的に繰り下がる減法の計算の仕方を、既習の計算や十進位取り記数法による数の表し方などをもとに図やブロック、言葉などで説明している。

5. 板書計画



6. 本時の資料

- ・本時の問題、課題プリント

問題 計算は正しいでしょうか。

$$\begin{array}{r}
 14 \\
 104 \\
 - 37 \\
 \hline
 77
 \end{array}$$

課題 十の位が0の数の計算の仕方を考えよう。

- ・振り返りシート（別紙）